

第 17 号  
編集・発行  
信州大学附属図書館  
繊維学部分館  
平成 7 年 10 月 27 日

\* ————— \* C O N T E N T S \* ————— \*

学部所蔵の織物見本帳	分館長	( 1 )
学術情報センターの科学文献 データベースについて	川崎晋司	( 4 )
図書館オリエンテーションのこと	河村 隆	( 7 )
分館通信 平成 7 年度上半期事業報告 告知版 分館日誌		(10)
編集後記 平成 7 年度受入備品図書目録 ( 7 月 ~ 9 月 )		(15)

\* ————— \*

## 学部所蔵の織物見本帳

分館長 篠原 昭

織物の中で最も雅びやかな錦織物を主に収められた織物<sup>せ</sup>裂れの見本帳、大冊 3 巻が学部図書館に保存されている。江戸末期から明治時代にかけて製織され、主として宮廷などに納められたものを中心に収集されたものと考えられているが、委細は不明である。本学部にいつごろからあったのかはわからない。長年繊維工学科（繊維システム工学科の前身）で保管されていたものである。絹紡織科と書かれているところをみると大正時代に入手したものではないかと推量される。

日本の伝統的な紋様の織物が多く、織物を設計しようとする人に参考

になる貴重な資料であろう。昭和55年、受験生用の学部案内の表紙に、この資料の中の一点をデザインしたが、繊維学部らしいと受験生には好評であった。

織物が衣服の材料として登場するのは、数千年も昔のことであるが、今日でもなお編物と共に衣服材料としての地位を失っていないし、不織布などが出現しても、織物を駆逐するには至っていない。

織物は<sup>たて</sup>経糸と<sup>よこ</sup>緯糸とが直角に交錯してできている簡単な構造物である。織物の特徴は糸の伸縮を伴わずに、経糸と緯糸との交錯角が、直角からずれる性質があることである。これを剪断変形と呼んでいるが、この変形だけで立体的な曲面を形成できるという優れた性質があり、これが平面的な織物で立体的な身体を覆う衣服の材料として最適である最大の理由になっているのである。

しかし、織物にはもう一つ優れた特徴がある。それは経糸と緯糸の交錯様式すなわち織り組織を変えることで、殆ど無数の種類の織物を創作できるからである。経、緯糸2本ずつで構成される織り組織

<sup>ひらおり</sup>が平織である。高寺政行講師の計算によると経、緯糸4本でくりかえす組織の数は157種類あり、経、緯糸8本ずつでくりかえされる織物は数多く実用されているが、その数は天文学的数字となることがわかっている。

ツイードという毛織物がある。これの特徴は織り組織と糸の色とを組み合わせることで、あの独特な模様を織り出しているのである。図1に示したのはサージと同じ綾織りに2色の糸を4本ずつ替えて模様を出したものでシェパードチェック (Shepherd Check) と呼ばれている。また図2は高寺講師が創出した模様である。

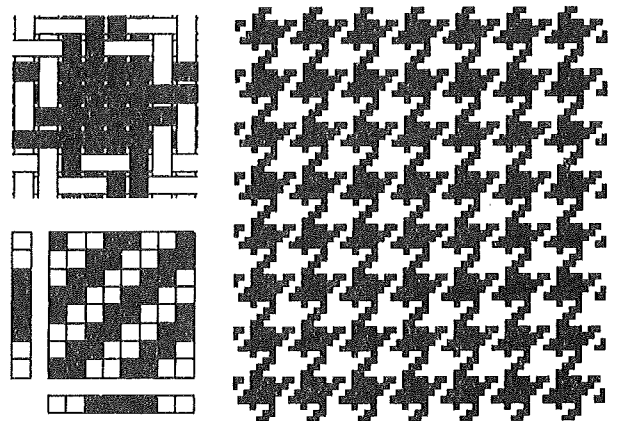


図1

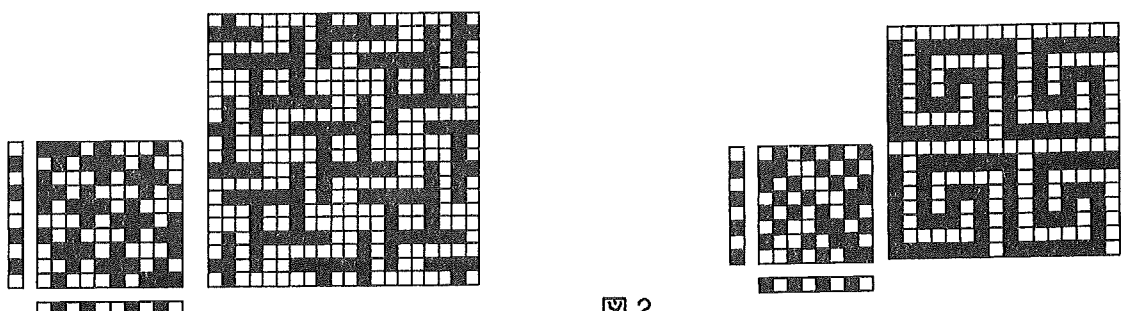
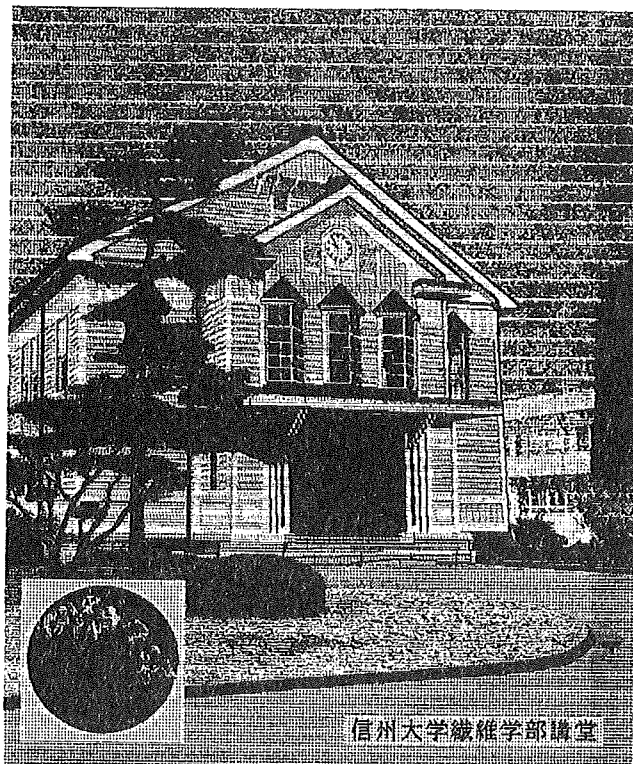


図2



複雑な模様や絵模様を織り出す場合は、紋紙というパンチカードを用いて、経糸の開口（上下）運動を制御して織るのである。これがジャカード

（Jacquard）織りである。近ごろはこの紋紙に代って電子計算機を併用して織れるようになっている。図書館内に飾られている織り絵は学部の繊維教育実習棟で織られたものである。因みにジャカードというのはこれを発明したフランス人 Joseph-Marie Jacquard (1752-1834) の名に由来している。日本ではフランス読みのジャカールも使

われるが、通常英語読みにジャカードと言う人が多い。

見本帳にあるような複雑な絵模様を織り出すには手作業で行われることもある。帯などにみられる綴（つづれ）織では緯糸を織り幅一杯に用いない緻密な糸使いがされている。西洋ではタピスリー（Tapisserie）と呼ばれている。これはフランス語で、日本では英語式にタペストリー（Tapestry）と呼ぶ人もいる。ゴブラン（Gobelins）織りというのはタピスリーと同じである。フランス郊外のゴブラン家の工房で制作されたものにつけられた名称であったが、今は一般名として使われている。本学部で織られているような単純なジャカード織りの絵織物をもゴブランと呼ぶことがある。

（感性工学科 教授）

※ 図書館にあるこの見本帳の中身は素人の私が見ても素晴らしいものです。この解説は篠原先生でなければできないということで無理を云って原稿をお願いしました。この場を借りて御礼申し上げます。

現在、ショーケースには見本帳を展示してあります。全部で3巻ありますので、ご覧になりたい方はお申し出ください。

## 学術情報センターの 科学文献データベースについて

川崎 晋司

その日のうちに製本を済ませておきたい事情があり、迷惑な時間だと知りつつ5時10分前に図書館に向かいました。案の定、製本機が使用できるまでに15分位かかりますとダメを押されました。無理を言って使用させていただきました。帰り際に本欄の執筆依頼を受けました。断わりきれませんでした。

私は修士（阪大・基礎工・物性物理）に入ったとき、明確な研究テーマを与えられることなく数か月間不安な日々を過ごすのですが、これはいくつかのキーワードを与えるだけで自分のおもしろいと思うテーマを考えよというのが指導教官の方針であったからです。しばらくの間途方にくれていましたが、迷える子羊に気のいいA助手が「図書館行って“ケミアブ”でも引いたら」とのたまわれます。実ははずかしながら修士1年まで“ケミアブ”（Chemical Abstracts）を知らなかったのですが、図書館に行くとほとんど1フロアが“ケミアブ”で埋まっているのを目の当たりにしてがく然としました。気が付くと私も“ケミアブ”で埋まっていた。ものぐさ小僧が「あんなん引いてられへん」と言うと、A助手は「しゃあない、ええもん見したろ」。そこで教えてもらったのが東大計算機センター所蔵のCAS（現在はCASTORに移行）で、それはそれは感動的でした。キーワードを入力すると関連の論文リストが出てきます。調子に乗っていろいろやっていると、A助手は「でもな。これめっちゃ金かかんねん」。終わり際表示される利用料金欄にはフォルクスでステーキがいっぱい食べられる数字が表示されていました（表1）。それでもしばらくはこれを使っていました。

私が博士に進学した年、京大から阪大院へ進んだK君が講座に登場します。阪大・基礎工・物性物理は京大・理・物理のすべり止めとして利用されます。そして、毎年確実にすべり止めに有効利用する人がいます。K君にCASを紹介すると「京大にはこれとおんなじようなんでもっと安いのがあった。」と言うではありませんか。それはINSPECといい一応物理学関連の文献となっておりますが（表1）メジャーな化学やその他の分野の文献もカバーされています。K君が言ったようにこれは非常に安い（と言うか無料。CPU料金のみ）。それ以後は講座をあげてこのINSPECを使っておりました。

博士修了後、私は何を間違ったか北大・理・“化学”に就職してしま

い、先述の理由で“化学”科では何となく INSPEC が使いづらいと感じていた時に学術情報センターの SCI を知りました(表 1)。これは科学全般を取り扱うもので収録文献数から判断して CAS と遜色ないと思います。信州大に移ってからも SCI を使用しております。SCI では他の学術情報センターのデータベース同様練習モードというのがあります。こういった文献検索では使用法により利用料金や検索結果に差ができます。そこであらかじめこの練習モードで検索手順を確かめておくこと非常に有効に利用できます。この学術情報センターのデータベースにはこのほか和・洋図書目録情報、学会予稿集、電気化学データベースといったものもあり非常に重宝します。ただし、科研費成果データベースなどという恐ろしいものもあります。どうしても Chemical Abstracts でなければならぬといわれる人にはアメリカ化学会に直接アクセスする CAS online (表 1)をお薦めします(幸いなことにここ上田地区は academic discount を受けられるようです)。この CAS online ではキーワードを登録しておくこと一定期間毎に最新文献を自動的にピックアップしてくれるサービスもあります。前記の方以外は SCI がかなり使い勝手がいいのではないかと思います。

表 1: 文献データベース (おもに全国共同利用大型利用計算機センターライブラリ・データベース連絡会発行のオンライン・データベース利用ガイド(第 14 版) 参考)

データベース	データの内容	データ量	料金
CASTOR	化学関連 (CA condensates, CA Search)	1977 年以降 843 万件	検索語 1 語につき約 130 円 表示 1 件につき約 80 円
CAS	CASTOR に移行		
INSPECA	物理学関連	1985 年以降 140 万件	CPU 利用料 (5 円/1 秒) のみ
OLDINSPA	物理学関連	1969 ~ 1984 年 150 万件	同上
SCI	自然科学分野 (Science Citation Index 誌に対応)	1983 年以降 859 万件	表示 1 件につき約 10 円
CAS online	化学関連その他	CAS (1967 年以降 1,100 万件)	上田地区は正規料金の 80% 割引 (約 CASTOR × 0.2?) 初回登録に 9,000 円

前頁のオンラインデータベースのほとんどは毎週更新され最新の情報が得られるのが魅力ですが、欲を言えば(著作権等の問題があり容易ではないと思いますが)、図表を含む全文がオンラインもしくはダウンロードして読めるようになれば理想的です。数秒で目的の雑誌にたどり着けるのに全文を取り寄せるのに数日かかってしまうのは少々残念です。マークアップ方式の言語を用いルールさえ統一すればテキスト通信で可能はずです(個人的には TeX 形式が希望ですが SGML でも HTML でもなんでもいいです)。米国物理学会が関連する雑誌( PR, PR Letters, JCP など)や独の Springer-Verlag 社の雑誌では数年前(米国数学会などはもっと以前から)から TeX 用のスタイルファイルを配布し電子メール投稿が可能ですし(雑誌毎に異なる参照の引き方などのうっとうしい部分を気にすることなく書けるのも大きい)、日本化学会欧文誌は1993年より SGML と TeX の組み合わせで出版されています。これらの雑誌はすぐにでもオンラインで読めるようにできると思うのですが。(ひょっとしてすでに可能かも知れません。不勉強をお許し下さい。)

以上、まったく個人的な経験で駄文を連ねてしまいました。お許し下さい。

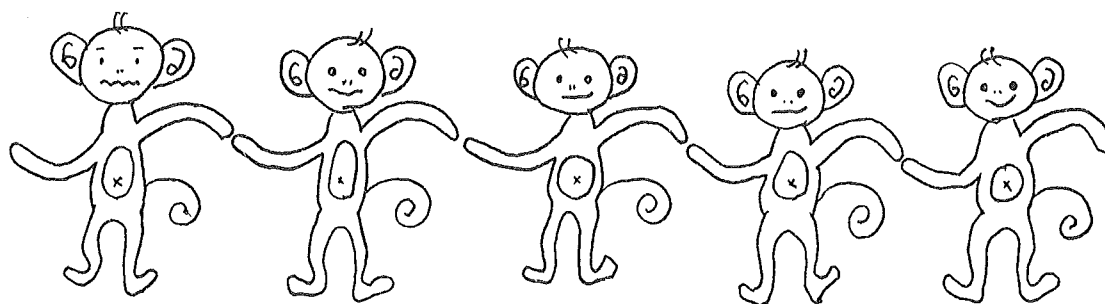
(素材開発化学科・助手)



データベース検索が学内で利用されているのかどうか係内で話題にしていたころ、ちょうど製本機を利用するために来館されたのが川崎先生でした。意識的ではないにしろ、半ば強制的に原稿を依頼したかたちになり、申し訳なく思っております。

そのような状況にもかかわらず、丁寧な説明をしていただき(恥づかしながら知らなかったことも多く)勉強になりました。ありがとうございました。

学術情報センターへの利用者登録の窓口は図書館です。資料等ございますので興味のある方はお申し出ください。



## 図書館オリエンテーションのこと

機能機械学科 河村 隆

夏休みに入って間もない7月24日に研究室の学生全員を対象として図書館のオリエンテーションを行っていただきました。それまでの経過とオリエンテーションの内容について報告します。

現在、私どもの研究室（機能機械学科繊維機械力学講座）は博士課程3名（うち社会人2名）、修士課程8名、研究生3名、学部学生7名の学生21名の大所帯です。これぐらいの人数になると研究室内の文化の継承がもっとスムーズに行われてもよいと思うのですが、研究内容を含めて必ずしもうまくいっていないのが現状です。

研究室内の無形文化のひとつとして図書館の利用法があげられますが、これも個人的なレベルでは高いレベルまで達する人はあっても研究室の文化とまではなっていないようです。我々教官の方でも学生に折に触れて図書館の利用方法を説明することはありましたが、文献の探し方、文献複写の頼み方など必要なときに最低限必要なことだけを説明するために、学生にとっては図書館の全体像を把握する機会を失わせていたかも知れません。

### ● A君の感想（抜粋）●

今日の図書館のガイダンスを受けて思ったことは、図書館について、自分がよく知らなかったんだな—と感じたことです。OPACについては、全く知りませんでした。そのほかにも色々知らないことがありましたし、一度はしっかりとガイダンスを受けてみるものだな—と思いました。このようなガイダンスを、2年生のときに設けてくだされば、もう少し図書館を利用したと思います（僕は、ほとんどとっていいほど本を借りたことがなかったので、勝手なことを言ってるみたいですが??）

そんなことを考えているときに Library の分館通信の欄で図書館の利用状況を見る機会がありました。思ったより少ないのに驚き、研究室の連絡板に

「今月の目標

一日一回は図書館に行くこと（20時まで開いています）」と書き込みました。図書館の楽しさ、使い方、良さを知ってもらうためには、とにかく図書館に通う習慣を身につけてもらいたいと思ったからでした。まあ、しかし、無目的にただ図書館へ行けというのも無理な話だと思っているときに、図書館でオリエンテーションを行う準備があるということを知ったのです。

そこで、図書館の基本的なサービスとその利用方法、図書の配置など分館に関する知識、図書そのものに関する知識、機械科の学生として必要な知識などについて説明をしていただくことになったのでした。(内容については別紙参照)

当日は研究室のメンバーが全員参加してくれました。そのときの様子や感想文などから次のようなことがわかりました。

1. 個人個人で図書館に対する理解度にかかなりのばらつきがある。
2. しかし学年が進むほどよく利用しているせいか図書館に対する知識も多い。
3. 図書館に対する好奇心が欠如している。
4. 図書の存在を身近に感じていない。

図書館がもっと有効に利用されるようになるためには3、4に対する対策が必要ではないかと思えます。今の社会状況では必ずしも紙の上に印刷されたものだけが重要な情報源ではないと思えますが、情報の宝庫としての図書館をもっと利用してもらいたいものですし、その楽しさをわかってもらいたいものだと思います。そのためには利用者にはもっといろいろなことを自分で学習しようとする態度が必要です。図書館にも利用者に対してさまざまな働きかけが必要だと思います。ユーザフレンドリな文献検索システムの構築なども急務でしょう。

オリエンテーションを受けてから研究室内の図書館に対するイメージと利用態度が変わったように思います。これが研究室のよい伝統となるように期待しています。最後に有意義なオリエンテーションに感謝いたします。

(機能機械学科・講師)

● B君の感想(抜粋) ●

図書館の利用はごく自然なこととしてやっていたが、今までの利用方法はというと、本の並んでいる前に行って、目的の本を棚に並べてある背表紙を見て、探していた。

だが、しかしである。

一度だけ、カード目録で本を探したことがあったが、それでも目的の本はなかなか見つからず、途中でいやになったことがある。OPAC端末などというものなど知らなかったし、論文や図書館の索引にもあんなやり方があったなんて・・・

それに図書館はコピー機や製本機などを使うことも、3年生まではあまり必要ないかもしれないけれども、今になってとても便利だということに気づかされた。

● C君の感想(抜粋) ●

図書館のいいところが再発見できたような気がします。例えば、OPAC端末のことなんて今日まで知りませんでしたし(今まであの部屋は事務室かなんかと思ってました^^;)、1991年以降の本がカード目録には載っていないということもはじめて知りました。



## 図書館オリエンテーション

【日時】 平成7年7月24日(月) 午後1時30分より

【対象】 機能機械学科繊維機械力学講座4年生・院生・研究生

【内容】 1. 図書館の設備・資料の案内

①カウンター(貸出カード、貸出条件について)

②ビデオ/カセットテープ

③新聞

④閲覧室

⑤グループ研究室

⑥ロッカー(開架室に入る場合の注意事項)

⑦コピー機

校費/文献複写サービス/生協コピー機

⑧製本機/裁断機

⑨所蔵調査

ブラウジング-NDCについて

OPAC端末

カード目録

⑩開架室1階案内

新着図書/一般図書/大型本/参考図書  
年鑑/JIS/地図

" 2階案内

新着雑誌

バックナンバー-分類順, アルファベット順/  
紀要類

1次資料/2次資料

2. 論文の探し方

科学技術文献速報(機械工学編)

3. 相互利用サービス

文献複写、現物貸借(I L L)

学術雑誌総合目録・書籍総目録

4. レファレンスサービス(参考調査)

5. 図書館利用上のマナー

6. 質問(まとめ)

【配布資料】

1. オリエンテーション日程表

2. 図書館利用案内

3. NDC8 網目表/要目表/細目表

4. OPACコマンド解説(Library9号より)

5. 科学技術文献速報:記事の記載例とその説明

## 分館通信

### □ 平成7年度上半期事業報告

Library第15号(平成7年4月発行)で、"4月からの新サービスあれこれ"の利用案内をしました。その後大変有効に活用・利用されているところですが、なお一層の利用者の増加を期待し、また未だ知らなかったという方のために利用状況とともに報告します。

#### 夜間開館の開始

長期休業中をのぞいて平日の夜8時まで、開館しています。

4月～9月に85日間夜間開館を行い、延べ約4500人の入館者がありました。

夕方5時から8時までの間に、平均約50数名の入館者があったこととなります。

#### プリペイドカード式複写機の設置

あらかじめ生協から複写機用のカードを購入しておくことにより、<私費>による文献複写はセルフサービスでできます。

料金支払い等の手間がなくなり、よりスピーディにコピーができることとなりました。ただし、著作権法遵守のために図書館資料を複写した場合は、申込書に記録してください。ご協力をお願いいたします。

#### カラー複写機の設置

4月～9月の<校費>による電子複写の実績は次ぎのとおりです。

白黒	34,168枚	341,680円	合計
モノカラー	99枚	9,900円	37,272枚
フルカラー	3,005枚	300,500円	652,080円

#### ビデオコーナーの設置

新たにテレビデオ2台を、1階玄関を入れて右側のコーナーに設置しました。

セルフサービスで鑑賞できます。ビデオソフトも今後さらに整備の予定です。

## 2 4 時間入退館システムの導入

4月の教官会議を経て「特別利用要項」が学部長裁定となり、専任教官の方は、分館の開館時間以外（休日の24時間、平日の午後8時から翌朝8時半まで）でも図書・雑誌の利用（閲覧と複写）が可能となりました。

5月～9月の利用カード発行枚数は45人分、利用件数は65件です。

以上が4月当初に計画・実施になった内容ですが、7月にはさらに利用者サービスの充実を目指して、学部内のご理解のもと2階閲覧室に空調設備が設置となりました。

夏季休業中閲覧室はほとんど満席の状態となり、十分に効果がありました。冬期間の暖房の際にも、なお一層の利用効果が予想されます。

また、8月から9月にかけて1階開架閲覧室の図書の移動と新聞閲覧コーナー・ロッカー室・ロビー周りの模様替えを行いましたので、次ぎに説明します。

### 1階開架閲覧室の図書の移動

いよいよ書架が足りなくなってきた状況の中、最上段の図書の出し入れ等、種々ご不便をおかけしてしました。

そこで、利用の少ないと思われる古い図書、雑誌を第2書庫に収納し、排架スペースを確保して図書全体の並べ直しをしました。

今後の図書増加のためにある程度の余裕を持たせましたが、そう遠くない時期にまた書架が不足する状況になり、対策を考えておく必要に迫られている現状です。

### 新聞閲覧コーナー・ロッカー室・ロビー周りの模様替え

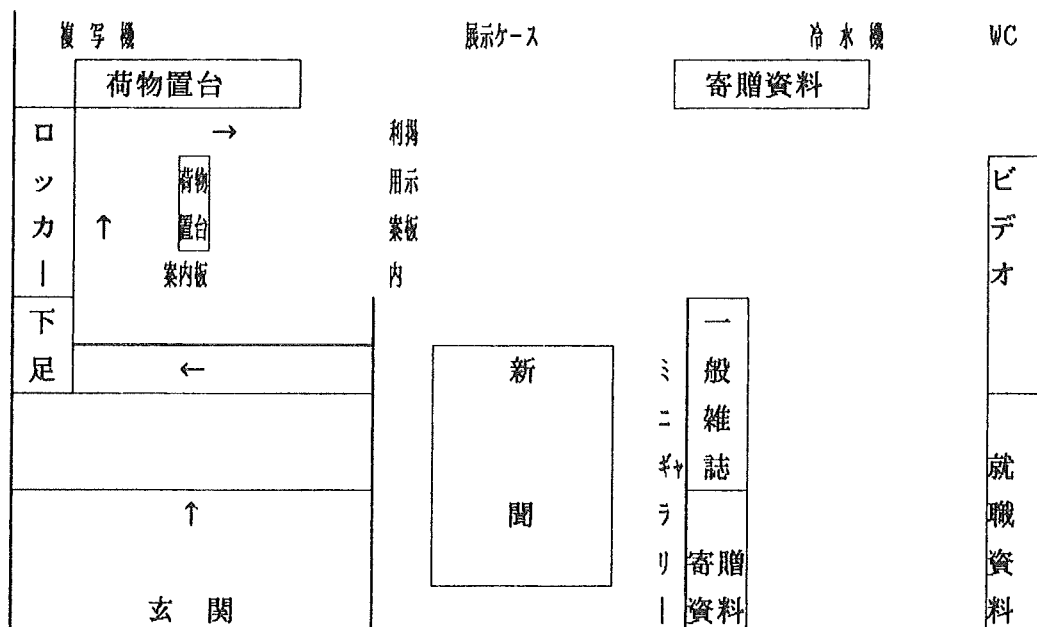
・はきものを履きかえてすぐに、手荷物をロッカーに入れるか荷物置き台に置いて入館していただくため、ロッカーを玄関ホールへ移しました。

ご承知のように閲覧席の周りは狭く、カバン、バッグ等は他の人に迷惑となりますので、お互いに荷物は持ち込まないようにご協力ください。なお貴重品は身につけてください。

また図書館内での飲食も他の人に迷惑となりますので、慎んでください。

- ・新聞はミニギャラリーのある仕切られたコーナーに移しました。
- ・次ぎのいくつかのコーナーを一箇所にとめました。

一般雑誌コーナー ビデオ鑑賞コーナー 就職資料コーナー 寄贈資料コーナー



\* 利用案内掲示板，案内板は必ずご覧ください。

## 告知版

平成7年7月～9月までの寄贈図書・雑誌

(ここでは本学部教官・関係者から図書館に寄贈していただいた図書・雑誌を紹介します。)

### [図書]

\* 眞野倅一先生より 「パソコンによる結晶とX線回折」

### [雑誌]

\* 藤井敏弘先生より Chemical & pharmaceutical bulletin  
vol.29 no.3(1981)-vol.42(1994)

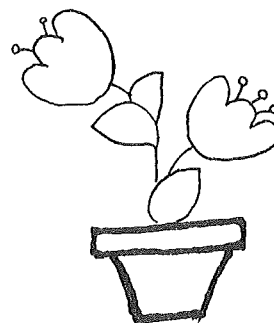
Biological & pharmaceutical bulletin  
vol.16-17(1993-94)

- \* 篠原 昭先生より 海外化学繊維の近況  
vol.320-506(1979-91)
- \* 佐納良樹先生より 粉体工学会誌 vol.32 no.7-9(1995)  
粉体と工業 vol.27 no.7-9(1995)
- \* 小林 勝先生より Newton 8月号別冊(1995)  
" vol.15 no.7-8(1995)
- \* 白井汪芳先生より 日経サイエンス vol.24 no.9-10(1994)  
" vol.25 no.1-6(1995)  
蛋白質・核酸・酵素 vol.39 no.10,14(1994)  
" vol.40 no.1-2,5,7-8  
(1995)
- \* 林 貞男先生より 化学と工業 vol.48 no.1-6(1995)  
日本接着学会誌 vol.31 no.1-6(1995)  
繊維学会誌 vol.51 no.1-6(1995)  
化学と教育 vol.43 no.1-6(1995)  
高分子 vol.44 no.1-6(1995)  
高分子加工 vol.44 no.1-6(1995)  
Bulletin of Chemical Society of Japan  
vol.68 no.1-6(1995)

☞ 冬休みの特別貸出について

以下の通り特別貸出を行います。

貸出開始	大学院生	11月24日(金)
	学部生	12月8日(金)
返却期限		1月8日(月)
貸出冊数	大学院生	5冊まで
	学部生	2冊まで
		(貸出冊数は通常通り)

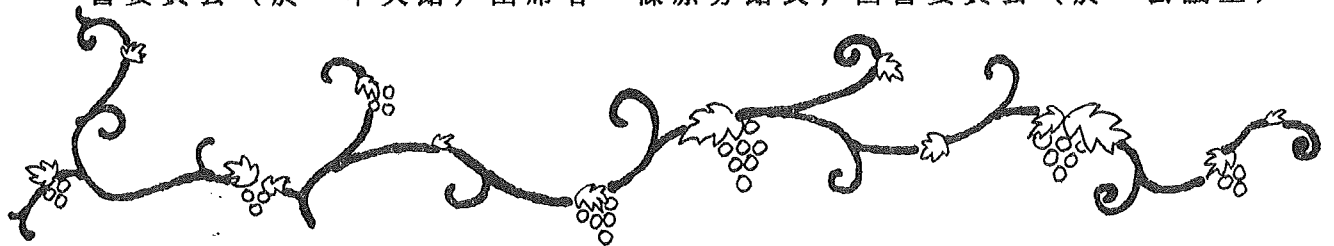


## ☞ 夜間開館休止について

冬期休業中、夜間開館（平日の午後5時から8時まで）はお休みします。休止期間は、12月25日（月）～1月5日（金）です。また、年末年始はお休みさせていただきます。掲示等にご注意ください。

## ☞ 分館日誌（7月～9月）

澁7/11 図書委員会（於・会議室），澁7/20 附属図書館運営委員会（於・中央館）出席者－篠原分館長，大越委員代理，澁7/20～21 著作権講習会－米田参加，澁7/24 図書館オリエンテーション，澁7/25 冷房運転開始，7/25澁7/25～26 ILL講習会－米田参加，澁8/1 附属図書館収書委員会（於・中央館）出席者－篠原分館長，図書委員会（於・会議室）



編集後記 今年の夏は、事業報告にもあった通り、引っ越しに明け暮れたような気がします。サービスということを考えれば、1カ所に資料を集中すべきですが、場所がないという現実に頭を悩ませています。このように図書館の課題は増える一方ですので、もちろん我々もいっそうの努力をしますが、皆様の良い知恵をお借りしたいと思えます。

7月に講座を対象にオリエンテーションを行いました。図書館としては初めての試みだったこともあり、思ったようにいかない点多々ありました。機械科の学生さんたちには説明不足だったかもしれませんが、図書館としては、利用者のナマの声を聞くことができ、大変役に立ちました。今後も研究室あるいは小人数単位でのオリエンテーションを行っていきたいと思えますので、ご相談ください。

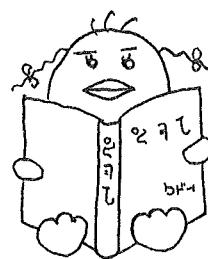
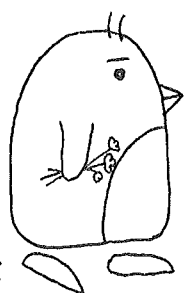
次号は1月の発行予定です。ご意見・書評など何でも結構です。係員か、もしくは e-mail での寄稿もお待ちしています。e-mail アドレスは jfg0100@giptc.shinshu-u.ac.jp です。■

## 平成7年度共同推薦図書目録

以下の図書は、学生のための共同推薦図書です。図書館の掲示板でも随時納入状況をお知らせしますのでご覧ください。（行頭に\*印がついているものは納入済）

著 編 者	書 名	発 行 所
* 繊維学会	産業用繊維材料ハンドブック	日刊工業新聞社
* 日本分析化学会	高分子分析ハンドブック 新版	紀伊國屋書店
* 日本化学会	化学便覧 応用化学編 第5版	丸善
* Steaven, L. Murov,	Handbook of photochemistry 2nd ed.	M. Dekker
*	新英和活用大辞典	研究社
* 清水和幸	バイオプロセスシステム工学	アイビーシー
* 大野豊・磯田和男	数値計算ハンドブック 新版	ホーム社
*	セラミック工学ハンドブック	技報堂出版
*	電気化学便覧	丸善
* 編集委員会	電池便覧 増補版	丸善
.	セラミックスの評価法	日本セラミックス協会
.	セラミックスのキャラクターゼーション技術	日本セラミックス協会
.	チャートで見る材料の固体NMR	講談社
* Schripsema, J.	Primary and secondary metabolism of plants and plant cell cultures III	Kluwer
* Biological Stain Commission	Staining procedures	Academic 藤田企画出版
*	Scientific American Library シリーズ (2~14)	東京化学同人
	眠りと夢／生物時計／脳と薬物 時間・空間・重力／細胞の世界を旅する 生物と大絶滅／宇宙／クオークから 宇宙へ／新ロウソクの科学／形の法則 目で見る高次元の世界	
* J.D. Murray W. Van. Ryper	Encyclopedia of graphics file formats	O'RELLY & ASSOCIATES
* 朝日新聞社	AERA MOOK 4 環境学がわかる	朝日新聞社
* 中野静夫	和のはなし	リサイクル文化社
* 中野聰恭	(和とくらしの物語百年史)	
* 養老孟司	形を読む：生物の形態をめぐって	培風館
* 河村洋／土方邦夫	熱と流れのシミュレーション	丸善
* 野村安正 訳	大空への挑戦－カルマン自伝	森北出版
* 藤井昭一	熱流体力学	森北出版
* 電気学会	電磁界の生体効果と計測	コロナ社
* 傾斜機能材料研究会	傾斜機能材料	工業調査会
* 森沢正昭	精子学	東京大学出版会
* 富野誠一	精密有機合成 2版	南江堂

著 編 者	書 名	発 行 所
* 平野恒夫	分子軌道法MOPACガイドブック 2版	海文堂
* C.Branden/J.Tooze	タンパク質の構造入門	教育社
*	分子から高次脳機能へ (タンパク質・核酸・酵素 Vol.40 No.6)	共立出版
* 宮坂昌之	接着分子ハンドブック (細胞工学別冊ハンドブックシリーズ)	秀潤社
* 沼原利彦	医学・生物学のための画像解析ハンドブック	羊土社
* 船井幸雄	未来への分水嶺	PHP
* 船井幸雄	これから10年愉しみの発見	サンマーク出版
* 電子情報通信学会	感性情報処理	ホーム社
* 増田/小林	センサー・エパリュエーション	垣内出版
* 上出健二	繊維産業発達史概論	日本繊維機械学会
* 日本繊維機械学会	被服心理学 改訂版	日本繊維機械学会
* 佐藤總夫	自然の数理と社会の数理 1,2	日本評論社
* 武者利光	逆問題とその解き方	ホーム社
* 浅野孝夫	計算幾何学入門	総研出版
* Mark, H.F.	Encyclopedia of polymer science (2nd ed.) vol.7,8	Wiley



### 平成7年度受入図書目録 (備品)

7月～9月

#### ★ 学生用 (図書館にあるもの)

\* 共同推薦図書は除きます。

書名	編著者	出版社	出版年	配架場所
日本農書全集 第56巻	山田龍雄	農山漁村文化協会	1995	開架
工業統計表 産業編 平成5年	通商産業大臣官房調査統計部	大蔵省印刷局産管社	1995	参考
工業統計表 品目編 平成5年	通商産業大臣官房調査統計部	大蔵省印刷局産管社	1995	参考
日本農書全集 第64巻	佐藤常雄	農山漁村文化協会	1995	開架
繊維統計年報 平成6年	通商産業大臣官房調査統計部	通産統計協会	1995	参考



★ 教 官 用 ( 研 究 室 に あ る も の )

配架場所の敬称略 / 受入日順

書名	編著者	出版社	出版年	配架場所
成分解性プラスチックハンドブック		エヌ・ティ・エス	1995	松沢
The physics of liquid crystals	P.G. de Gennes	Oxford U.P.	1993	松瀬
Fullerene research 1985-1993	T.Braun	New Jersey	1995	東原
成分解性プラスチックハンドブック		エヌ・ティ・エス	1995	奈倉
The evolution of electrical engineering	E.Weber	IEEE Press	1994	小西
テニスの文化史	ハイナ・ギルマイスター	大修館書店	1993	松本
分子機能材料と素子開発	清水剛夫	エヌ・ティ・エス	1994	阿部
非線形量子光学	花村榮一	培風館	1995	松瀬
シュレーディンガー その生涯と思想	W.ムーア	培風館	1995	松瀬
ファッションデザイナー	柳澤元子	平凡社	1995	清水義
電気伝導性酸化物	津田惟雄	裳華房	1993	松瀬
農学大事典		養賢堂	1987	木口
Density functional methods in physics	R.M.Dreizler	Plenum Press	1985	松瀬
Physics & chemistry of fullerenes	P.W.Stephens	World Scientific	1993	渋谷
Fullerene research 1985-1993	T.Braun	New Jersey	1995	渋谷
Heat transfer 1994 vol.1~7	G.F.Hewitt	Institution of Chemical Engineers	1994	日向
自動制御ハンドブック 基礎編	計測自動制御学会	オーム社	1983	鳥羽
快適科学	長町三生	海文堂出版	1992	鳥海
計算力学の基礎	吉野利男	オーム社	1994	鳥海
破壊力学	小林英男	共立出版	1993	鳥海
土壌糸状菌	渡邊恒雄	ソフトサイエンス社	1993	山本浩
超伝導物理入門	御子柴宣夫	培風館	1995	小西
複合材料基礎工学	福田博	日刊工業新聞社	1994	鳥海
Lepidopteran anatomy	J.L.Eaton	Wiley	1988	木口
Oscillations in finite quantum systems	G.F.Bertsch	Cambridge U.P.	1994	松瀬
Dynamics of cellular motility	M.Murase	Wiley	1992	小林シ
計測・制御技術		フジ・テクノシステム	1995	山浦逸
自然科学者のための数学概論	寺沢寛一	岩波書店	1983	松瀬
動物シンボル事典	ジャン・ポール・クレベール	大修館書店	1989	多田
英米タテ表現辞典	J.S.ニーマン	大修館書店	1987	多田
計測制御技術事典	計測自動制御学会	丸善	1995	鳥羽

書名	編著者	出版社	出版年	配架場所
確率過程とその応用	小和田正	実教出版	1983	鮎
Bergey's manual of determinative bacteriology	J.G.Holt	Williams & Wilkins	1994	山本浩
The essence of chaos	E.N.Lorenz	Washington U.P.	1993	松瀬
目視検査の自動化技術	輿水大和	テクノシステム	1995	西岡
常微分方程式	浅野功義	講談社	1987	森川
なっとくする量子力学	都築卓司	講談社	1994	渡辺
高温超伝導体の物性	内野倉國光	培風館	1995	小西
オブジェクト指向システム分析設計入門	青木淳	ソフト・リサーチ・センター	1993	桑井
例題による!!オブジェクト指向分析設計テクニック	青木淳	ソフト・リサーチ・センター	1994	桑井
化学熱力学	池上雄作	放送大学教育振興会	1995	渡辺
量子力学	朽津耕三	放送大学教育振興会	1993	渡辺
物質の科学・物理化学	平川暁子	放送大学教育振興会	1995	渡辺
基礎化学	平川暁子	放送大学教育振興会	1994	渡辺
急速濾過・生物濾過・膜濾過	藤田賢二	技報堂出版	1994	中本
モンテカルロ法とシミュレーション	津田孝夫	培風館	1995	松瀬
皇帝の新しい心	ロジャー・ペンローズ	みすず書房	1994	鈴木昭
遺伝アルゴリズムハンドブック	L.デービス	森北出版	1994	桑井
新普及指導活動論	川俣茂	全国農業改良普及協会	1994	矢嶋
新繊維科学		通商産業調査会出版部	1995	大越
Sol-gel processing and applications	Y.A.Attia	Plenum Press	1994	高須
Fundamentals of electrochemical science	K.B.Oldham	Academic Press	1994	高須
The Hawkmoths of the western Palaearctic	A.R.Pittaway	Harley Books	1993	木口
講談社英和中辞典	川本茂雄	講談社	1994	多田
コンサイス外国人名事典	相田重夫	三省堂	1985	多田
最新英語情報辞典	堀内克明	小学館	1986	多田
英語図詳大辞典	L.ブラゴニア・Jr.	小学館	1985	多田
小学館プログレッシブ英和中辞典	池上嘉彦	小学館	1987	多田
故事名言・由来・ことわざ総解説	三浦一郎	自由国民社	1993	多田
世界文化情報事典	G.P.スケーブランド	大修館書店	1995	多田
辞林21		三省堂	1993	多田
逆引き同類語辞典	浜西正人	東京堂出版	1993	多田
読みやすい大きい活字の実用国語新辞典		新星出版社	1991	多田
使い方の分かる類語例解辞典		小学館	1994	多田